

20231113 T シャツエコバッグで地球を救おう！

前回は、フードロスに対するフランスの国家的取組についてご紹介しました。今回は、4年生が先日の「5・GO マーケット」で取り組んだTシャツエコバッグの取組についてご紹介します。

4年生とTシャツエコバッグの出合いの橋渡しになったのは、学校経営協議会委員でSDGs研究会の柴田明子さんです。柴田さんはこのTシャツエコバッグ作りを昨年花小金井図書館で実行しました。花小金井図書館では、借りた本を持って帰るのに便利なTシャツエコバッグの作り方講習会を行い、図書館としてもこのバッグをカウンターに置いて利用者に使ってもらっていました。その取組をぜひ五小でもいかがですかという柴田さんからの誘いに、「ポテトチップスから見える世界」の学びから、地球環境のために自分たちにできることないだろうかと模索していた4年生が連携を申し出ました。

4年生は、このTシャツエコバッグの活動に、まず地球環境がプラスチックによって危機に瀕しているという現状を知るところから入っていきましました。すでに1学期のポテトチップスの学びからパーム油をとるために熱帯雨林が急速に農地化されていることを学んでいました。そして、それが生物多様性喪失を急速に加速していることや地球温暖化につながっていることも学んでいました。地球環境に対する関心はこの時点で耕され始めていました。さらに地球環境破壊の学びは、プラスチックの地球環境に与えている影響についても広がっていました。その問題点について、9月に柴田さんにご来校いただき教えていただく時間を設けました。柴田さんは、プラスチックの問題について詳しく教えてくださいました。そして、脱プラスチックに向けて

すぐできる取組として、レジ袋（プラスチック）からエコバッグへの転換を教えてくださいました。そして、エコバッグを着なくなった T シャツを活用して作ることや、実際にそうしたエコバッグを活用している図書館の話をしてくださいました。この学習には、花小金井図書館の岡村館長も参加してください、その良さと人気についてお話してくださいました。T シャツエコバッグに取り組むことには、「もったいない」ということだけでなく、脱プラスチック社会を進めていくという意味があります。そこには、地球環境をよりよくしていきたいという願いが込められています。

さて、実際に T シャツエコバッグ作りを計画・実行となった時に、T シャツをどうやって集めるかが問題になりました。校内だけは限界があるし、何より 6 年生の「服の力プロジェクト」が全校を挙げて進行中です。しかし、近隣の幼稚園・保育園（子どもたちの出身園）にも呼びかけたらどうかという子どもたちの発想で、回収のグラウンドが一気に広がりました。今回連携をお願いしたのは、花小金井幼稚園、花小金井愛育園、りんどう幼稚園です。事前に管理職からも説明とお願いをし、了承をいただいた上で、園長先生への依頼は全て子どもが行いました。電話でのご挨拶や実際に訪問しての趣旨説明、チラシ配布の依頼など、全て子どもがやりました。卒園した子どもたちがこうして成長して園に来てくれる姿は、各園にとっても嬉しいことだったでしょう。そうして集めた T シャツで、マーケット当日分 100 個以上を準備しました。当日は一つ 10 円で販売しました。また、T シャツエコバッグを実際に作るコーナーも設け、お客さんに作り方をレクチャーしていました。この近隣幼稚園と連携しての T シャツエコバッグ作りは今後も継続し、製作したバッグは花小金井図書館に順次寄贈していくとのことでした。

1 学期に学んだパーム油をとるために熱帯雨林が切り開かれ生物多様性が急速に失われている問題についてさらに追究を進めているグループは、今回

の「5・GOマーケット」で、環境保全団体である WWF (World Wide Fund for Nature) ジャパンへの募金活動を行いました。単に募金を訴えるのではなく、今地球が抱えている問題について分かりやすく紙芝居にして、それを見ていただいたうえで募金を呼びかけていました。

「まず、知ってください」WWFのホームページが訴えます。

問題をまず知って、それに挑戦している人と関わって、その思いを自分の思いとして受け取って、足元から問題意識をもって行動する。これからの世界をどんな世界にしていきたいか、主体的に考えられる子どもを育てる教育をすすめていきたいですね。